



FREE PAPER

ストリートアートのキーパーソンが立ち上げた、美しい新メディア。

Text: Kunichi Nomura

アーロン・ローズ。ストリートアートを語る上で避けては通れない男。90年代初頭、NYのロウワーイーストにギャラリー“ALLEGED GALLERY”をオープンすると、スケートやグラフィティの世界に注目し、同じ目線でそれらのアーティストを取り上げてきた。スケート界のヒーロー、マーク・ゴンザレス、グラフィックデザイナーのマイク・ミルズ、NY映画界の天才児ハーモニー・コリン、アメリカのトップ50アーティストにも選ばれたグラフィティライター、ツイスト、映画『スプラウト』で知られるトーマス・キャンベル。DIY精神と、何よりストリートから生まれた新しい動きを積極的にサポートし、アンダーグラウンドの小さなアートだったものを表の世界へと引っ張り上げた。アーロンが発掘したともいえる彼らの作品は、今やハリウッドからナイキをはじめとする世界企業の広告、そしてあらゆる国の街角で見ることができる。

過去のアーカイブをまとめた一大ストリートアート展『BEAUTIFUL LOSERS』で、世界を巡回中のアーロン。そんな彼がサーフブランドRVCAと組んで始めたのが、この大判のフリペ『ANP』。過去と現在のアーティストの作品とインタビューを美しい印刷で紹介する、いわばタダで手に入るALLEGED GALLERY。アートパブルの声が再び聞こえる昨今、必要なのはこうしたグラスルーツな活動。日本での配布を激希望！



「ANP」は不定期刊。全米のギャラリー、本屋などで配布されるが、何しろこのクオリティ、あつという間になくなるらしいので、www.rvcaanp.comでサインアップをぜひ。

PDF MAGAZINE

インターネットの新たな可能性か？ PDFマガジン『102』スタート。

インターネットが一般家庭に普及して、かれこれ10年が経過した。きっかけは阪神淡路大震災だったが、その後のインフラ整備によってメディア性は飛躍的に高まっていった。現在では個人情報を開示するブログやミクシィなどのソーシャル・ネットワークワーキング・サービスが、簡便な個人メディアとして人気を集めている。

そんなインターネット界にまた新たな新しい動きを積極的に登場してきた。それがPDFマガジン。昨年あたりは限定的な専門マガジンだったり、購読料が意外に高かったりしたが、ここに来て早くも、エンターテインメント性のある一般向けコンテンツを有し、かつ無料配信などという不埒なPDFマガジンが登場してきたのだ。その名は『102』。紙媒体側としては、ついに出てきてしまったかという印象もあるのだけれど、これも時代の流れなのだろう。

このPDFマガジン『102』のコンセプトは「10」。ただこれはいわば、さまざまなテーマを10という枠で括る、というだけのものだ。コンテンツをのぞいてみると、そこには例えば「10種の虫の肖像写真」や「地震について知っておきたい10のポイント」から、「世界最高の職業10」「ホスト10人に聞く、最初の一言」に至るまで、ユニークなテーマが10項目並んでいる。

メディアは、そこに介在するハードとソフトが両輪となって、初めて理想的な進化を遂げてゆく。今はまだ緒についたばかりの『102』だが、インターネットという場に無限の可能性がある以上、利便性の高いソフトウェア(PDF)という名のハードを活かし、そこに載せるコンテンツ、つまりソフトをさらに充実させていけば、きっと新たなメディアの地平を開拓できるはずだ。



『102』は、Eat creativeがアドビシステムズの協力の下、日英バイリンガルで発行するウェブ・PDFマガジン。不定期で年2回以上配信予定というのが少々物足りないけどね。www.i-eatsite.com/tenより無料配信。